OMC News 大阪ムービーサークル

ＯＭＣ事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合 原 一 夫　TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20　前 田 茂 夫　TEL072-850-5781
http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/

平成１７年１１月（2005年）No.４７９

# 公開映写会対応
# 来年はハイビジョン上映も視野のうちに

会長　合　原　一　夫

例会ではこのところワイドやハイビジョンの作品が通常の４対３の作品と半々の割合になってきました。一年前とは様変わりです。例会ではハイビジョンも何とか対応していて、美しいシャープな映像に見とれて、その後に続くワイドの作品が何となく締りが悪く感じられ、損をされています。

ほんとうは、休憩後のトップにワイドを上映してその後にハイビジョンを上映すればよいのですが、今のところカメラからプロジェクターに送っているのでその切替に時間がかかるので、休憩のときに準備をしておこう、ということのようです。

一方、公開映写会では、まだハイビジョン対応の高照度のプロジェクターが用意できないので、わざわざ画質を落として通常の DV デッキで再生しています。ニュースでは近くエプソンからアマチュア用のハイビジョン対応のプロジェクターが出るという話です。恐らく 20 ～ 30 万円の間で買えると思いますが、はたして大画面で上映したときの明るさが満足いくものか、こればかりは験してみなければ分かりません。例会レベルでは今のプロジェクターで充分ですが、公開映写会用となると、現在、関さんや上総さんから通常型の映像上映用にプロジェクターを借用して上映しています。ですがランプがいつ切れるか等、所持者も心配しています。来年はハイビジョン上映もしたいが、OMC 単独で持つのか或いは連盟などグループで持つのか、資金は有志のカンパによるのか、保管場所、上映の世話人、他へ貸出すときのレンタル料等々問題山積です。二次会の席ででも話題にして頂き関心をもって来年への課題にしましょう。

## １１例会のお知らせ

１１月例会は２６日（第４土曜日）午後６時より難波市民学習センターにて行います。秋たけなわ、撮影にあちこちとび回っておられる方が多いと思います。ぜひ貴方の作品を見せて下さい。
二次会が楽しい OMC 例会にどうぞお越しください。

## 大阪アマ映像祭は大盛会

今や関西地区映像界の最大のイベントとなった大阪市立中央図書館と大阪アマチュア映像連盟との共催による「大阪アマチュア映像祭」は、去る１０月３０日 13 時より中央図書館にて開催されました。当日は晴天に恵まれ、観客の出足も良く、定刻の午後１時にはほぼ満席となり盛会でした。

内容的にも好評でほっとしました。来年は１０周年記念の年になりますので、何か新しい試みは無いものかと、懇親会後の二次会でしきりに話題となっていました。

**■予告**

・12 月 24 日（第４土曜）
　13 時より幹事会（年度賞選考会議）
　15 時より世話役会（来期役割分担など）
　18 時より例会
・1 月例会と新年会は１５日（第３日曜）
　13 時より例会
　16 時より総会
　17 時より新年会

以上、来年も今年同様、第３日曜に行いますのでよろしくご予定ください。

## 安居作品「一人になって」に想うこと

１０月例会で初めて拝見した安居氏の「一人になって」を鑑賞しながら、改めて良枝さんのことを思い出しておりました。

こう云っては何ですが、逆の立場であっても或いは「一人になって」が出てきたのではないか、と思いました。それだけにお二人は同じ趣味のもと、助け合いながら生き生きと生活しておられました。

突然、相方がなくなったら、果たして年月が立たないと追想の映像は出来ないかも知れません。出来たとしたら、恐らくナレーションは極力抑えて、映像で語りかけたいと思うでしょう。一人になったら、淋しさは当然あるとして、前向きにどう生きていくか、楽しくなるような人生をどう造り上げていくか、これがテーマの課題になるだろうと思います。写真の前にじっと座っている主人公の背中を BGM なしで長めのカットで描写するだけで淋しさの表現はできるのではないか、仲間と撮影会で喜々として撮影に夢中になっているカットや、喫茶店でビデオ談義に花を咲かせている主人公のカットなどは、前向きに生きる今後の人生を暗示するのではないか、でも、実際にその立場になったら果たして、「一人になって」みたいな作品ができるのだろうか等と自問自答しております。安居夫妻だから作れたのではないか、と。（合原）

## １０月例会レポート

堺の公開映写会が午後開催され、それを鑑賞してからの例会となりました。今月の司会、合原氏、書記、安居氏、機材、増池、江村、河合の３氏、受付、藤原、宮崎の両氏にて進行、30 名の出席と 13 本の出品があり盛会でした。

**■出席者**：有村、石垣、江藤、江村、奥、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、中尾、西井、西村、華岡、秦、藤原、前田、増池、松本、宮崎、森口、森、森下、森田、安居、山本、吉岡、鉄具の 30 氏（敬称略）

**■上映作品**（今月の講評は安居世話役です）

**１．雨のならまち**
**増池　茂さん　　7 分22秒**

増池さんのカットはどれも一部のすきもない完璧なものです。いつも感心しています。特に今回は「雨のならまち」ということでなかなか風情がありました。ならまちを何回も訪れた事のある人は全カット、ああ、あそこだとおもいます。しかし、司会も言っておられた様に初めてならまちを訪れる人には少しわかりにくいように思います。ナレがないのでせめて超有名な東大寺や興福寺の南にあるという位置関係の地図を入れたり「格子の家はここです」程度のスーパーをお願いしたいなと思いました。

**２．一人になって**
**安居利次さん　　7分20秒**

家内をなくして落ち込んでいるときに「安居良枝さんを偲ぶ会」を合原さんをはじめクラブの皆さんが中心になって開催していただきました。それをきっかけに立ち上がることができました。その心の記録です。（作者・安居氏の自己評）

（注：本作品は、愛媛ビデオフェスティバル 2005 優秀賞受賞作品です。）

**３．山の彩り**

**有村　博さん　　3分27秒**

各地を旅行され山が大好きな有村さんは秋の彩りのカットも山ほどお持ちのはず、今回はその中から　いろづき　始めた自然のカットを実にうまくつながれて詩情豊かに編集されています。

３分半ということもあってもうチョットみたいなと思うところで終でした。でもラストは雪を着た雄大な山脈を背景に豆粒ほどの登山者の人影、なんとも言われぬ印象的なシーンでした。ただＢＧＭが秋に少し合わないのではないかという意見がありました。

**４．金門島**

**山本正夢さん　　6分30秒**

金門島という名は頭のどこかに残っていましたが、現地へ行ってこられたビデオを見てショックをうけました。中国大陸からたったの２ｋｍ、台湾からのほうがずっと遠いのですね。昭和２４年金門島争奪戦があった事も記憶に残っていません。平成１３年になって観光客が入れるようになったとはいえ、海岸線のビデオを見せてもらうと逼迫感が感じとれます。山本さんの作品は単なる珍しい景色風俗だけでなく、マスコミが報道しない裏側の現実を描かれるので本当にすごいなと感心し続けています。

**５．京都歳時記・夏**

**紙本　勝さん　　11分**

京都歳時記　冬・春編につぐ夏編です。あおい祭りにつづいて、あじさい、お田植え神事、あの祇園祭りのハイライト山鉾巡行の方向転換場面が現れます。どれをとってもすばらしいカットの連続でよくもまあこれだけとられたと紙本さんの撮影技術とバイタリティに脱帽です。そして画面は五条阪の陶器市、お盆の行事六道まいり、あの大文字焼きの炎のズームバックでエンドとなります。氏は京都だけでこれだけの得がたいカットをお持ちになっているのです。更に日本の主要な祭り行事はすべて映像のテープと共に頭の中に刻み込まれているのでしょう。我らが誇る祭り行事の人間記録王ともいえる存在です。

**６．ルミナリエ賛歌**

**秦　峰一さん　　10分35秒**

感動しました。今までたくさんのルミナリエ作品を拝見しましたが、これだけ多くの人々の表情を捉えてルミナリエを構成された作品は初めてです。震災後復興の明かりとなったルミナリエでしたが１０年たって、本当の意味で「ルミナリエを賛歌する」作品にお目にかかれた気がします。ひとつの具体的象徴がカメラ付携帯です。一人であるいはアベックでルミナリエを頭に記憶するだけでなく携帯の液晶にメモルことにより、より多くの人たちと感動を共有できます。あの雑踏の中でこれだけ鮮明に参加者のアップをとることは至難のわざですが、ルミナリエ賛歌とゆうタイトルの意味がうまく表現されていました。そうゆう意味でラストの群集のカットは他の意見もありましたが筆者は秀逸だと思いました。

**７．緑の中で**

**江藤洋司さん　　7分16秒**

岡崎からよく来ていただきました。お元気そうで何よりです。今年のゴールデンウイークに長野県のりんご園で、すごされたワーキングホリデイの体験記です。いろんなことに体当たりで挑戦されそれを作品化される意欲に脱帽です。ただ説明されるナレーションが司会も言われたように早口で少し聞きづらい所があるので損をしておられるようです。でも３年６回目の参加とはびっくりです。次回は全体像を整理され第三者にもスーと理解できる作品にしてください。江藤さんなら出来る、技術と情熱と若さをもっておられるこれからの人なんだから…。

**８．堺まつり（ハイビジョン）**

**奥　宏さん　　10分**

奥さんのハイビジョン撮影と編集は完全に身につけられた感じです。周りにやいやい言わずバイオのＨＤ対応ＰＣを買われソニーのＨＣ１でこつこつと一人でものにされました。今回の作品は編集も見事でたった３ヵ月でここまで達成された偉業は同年代の筆者にとって大いなる希望の星に見えます。作品の堺まつりはさすが鉄砲と自転車のまちだけあって鉄砲隊の射撃場面は迫力満点に撮影されていました。小学生のグループによる一輪車演技はこれが本当に普通の小学生かとびっくりしました。何が出てくるか、わからないその場の撮影ですが、ＨＣ１の特性を生かした撮影にも脱帽で

す。来年の今頃はみんながハイビジョンになっているのでしょうか。

**9．赤川鉄橋（ハイビジョン）**

**前田茂夫さん　　9分10秒**

ハイビジョンのオーソリティ前田さんがHC1 の業務用 A1J を購入され撮影されたお得意の鉄道ビデオです。一日に３本しか通らない城東貨物線の赤川鉄橋を通過する時を狙っての撮影ですから数日を費やされたそうです。ですから鉄道フアンだけでなく私達ビデオ仲間にも感動を与える作品になっていました。鉄橋の横の仮橋を歩く人たちの画き方も秀逸でベテランの撮影技術を遺憾なく発揮されていました。鉄橋の下の情景、はとと遊ぶ老人、釣りをする人、貨物列車の鉄橋を走る音とあいまってそれは詩的な別世界につれていかれたような感じがしました。撮影も編集もこの境地に早く到達したいと思いますが筆者にはまだまだ未来のことのように思えます。

**10．飛翔（ワイド）**

**進藤信男さん　　7分24秒**

飼育していたコウノトリを自然に返す「放鳥」。その瞬間をよく撮らてましたね。７０－８０m離れたところから２０倍のレンズに２倍のテレコンをつけて撮られたとか。こういう条件で飛ぶ鳥を追うのは至難の技ですが、ずっと飛ぶ鳥を追っかけておられた進藤さんならではの成果だと思います。構成も非常にわかりやすくなぜここまでしてコウノトリを保護し繁殖さすか納得しました。進藤さんの作品は最近とみに鳥と人間社会と環境とのかかわりあいを追求した本格的なものが多くなりました。このテーマは全国的なコンテストに出品されても充分合格される作品だと思います。これからに期待します。

**11．北国脇往還（ワイド）**

**森口吉正さん　　9分07秒**

「ほっこくわきおうかん」と発音するそうです。美濃と北陸を結ぶ街道とのことだそうですが知りませんでした、しかしこの道筋に小谷城があり、信長と戦った浅井長政が愛妻お市の方や後によど君等になる娘達を逃がしてから涙を呑んで自害したとゆう哀愁漂う地と聞けば急にこの街道が身近なものに感じられます。ひっそりとした林の中に城址跡とか本丸跡という石に彫った字が浮かびあがります。それだけで結構当時の情景が彷彿とイメージされる編集は名ナレーションとあいまって森口さんの才能でしょうか。歴史の好きな筆者にとってその表現方法には学ぶところが多かったすばらしい作品でした。

**12．山の辺の道（ワイド）**

**鉄具嘉夫さん　　10分30秒**

昭和３０年ごろ犬養孝さんの万葉旅行当時のことを思って山の辺の道を歩いたと鉄具さんはいわれました。筆者も旧制高校時、犬養節の万葉集の講義を受けたものの一人として懐かしく拝見しました。犬養さんは万葉集に特別の思いいれがありますのでその世界をビデオで表現するのは至難の業と思います。山之辺の道にはたくさんの史跡がありそれぞれにゆかりの万葉集の歌があります。万葉旅行の同好会の人を対象にビデオを見せる場合は鉄具さんのつくりが最高と思います。しかし一般の人を対象にしたときはどこか１－２ヵ所に絞ってエピソードで盛り上げたほうが万葉集にあまり関心のない人にも興味を持って見てもらえるのではないでしょうか。

**13．よさこい２００５（ワイド）**

**江村一郎さん　　6分30秒**

ＯＭＣフェスティバル出品の「ＹＯＳＡＫＯＩ 2005」は夜のカットで編集されたものでしたがこの作品は昼編です。導入部分が変わっています。「バスが２台つづけてはいってきます」のマイクの音にアップのバス２台、そしてその道のわきでお菓子を食べている女の子の顔のアップ、なるほどこれでこれから演じられる動的よさこいの舞台説明ですか、ウーン演じる女の子の顔のアップから汗が滴ります。躍動感の連続、でも途中観客のお父さんの股の間から出てくる幼い女の子のシーン、一息つきます。計算された編集です。そしてラストはアップのスローカットと逆光とスローをうまく組み合わせて画面を引かずに終にもって行く技法はさすがだと思いました。「江村さんのよさこいはどこまで進化するのだろう」という声がありました。

以上で上映を終え、喫茶組と一杯組とに別れて二次会を楽しみました。